

Biomedical Laboratory Scientists (BLS) Virtual Café 2021 開催

第3弾：ガーナ・JICA ガーナ事務所/ガーナ大学野口記念医学研究所

BLS Virtual Café 2021 の第3弾として、2022年3月11日（金）にガーナ・JICA ガーナ事務所/ガーナ大学野口記念医学研究所（野口研）とのオンライン国際交流を開催しました。

開会のご挨拶では、2018年度春期に短期海外研修で学生7人を引率してくださった沢辺学科長が、当時の思い出と日本と大きく異なる環境の中の医療体制を知る事の大切さを語ってくださいました。

セッション1では、JICA ガーナ事務所現地職員と日本人海外協力隊員による「ガーナにおける保健医療分野のJICAの活動」の紹介がありました。その中で、本学と関わりの深い野口研や2018年9月に西アフリカの研究拠点となるべく建設された野口研先端感染症研究センターの活動紹介もありました。学生も日本からの援助が遠く離れた国で多くの人の役に立っていることを誇らしく感じたことと思います。

海外協力隊員として現地で働く保健師の方からは、さらに学生と近い視線で見たガーナの様子を知る事ができました。病院での医療人員の少なさ、炎天下の乳児検診の様子、神話のために検診・ワクチンを受けない等の話は驚く事ばかりでしたが、「衛生面・ケアの質・環境整備などは改善の余地があり、日本との違い＝間違いではなく、文化や背景を知る事が大事であり、限られた資源の中で工夫をしながら医療活動することは日本では経験できない学びがたくさんある」と、ガーナでの活動の意義が伝わってきました。



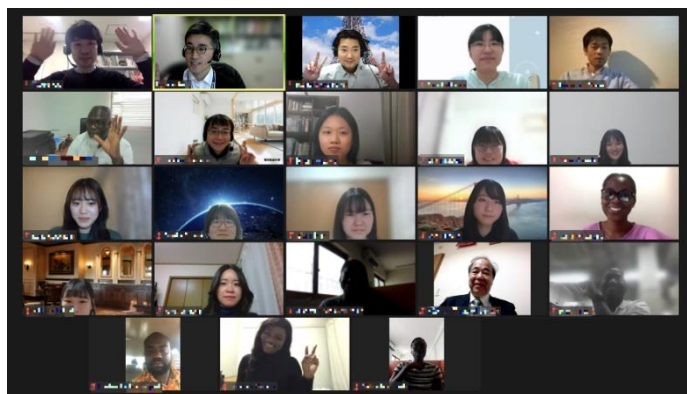
セッション2では、学生の文化交流として日本・ガーナ両国を理解するためのプレゼンテーションを行いました。本学学生3グループは、「お勧めの日本の観光スポット」「日本の四季と生活」「ガーナとの関わりのある日本の物」を紹介、野口研の2グループは、「ガーナのライフスタイル」、「ガーナでのCOVID-19状況」の紹介がありました。

最後に設けられた 15 分ほど Free Conversation では、学生達はプレゼンテーションも終わ
り緊張もほぐれたのか食べ物の話やお互いの国のイメージの話などで盛り上がりました。

ガーナとは 13,000 キロ以上離れており、コロナ禍前でも気軽に行く事は困難でしたが、画
面越しではあってもリアルタイムでのオンライン交流会でお互いの国が以前より身近に感
じたのではないのでしょうか。



<本学学生のプレゼンテーション資料>



<セッション後の記念写真>

昨年 12 月末から始まった、タイ・台湾・ガーナ 3 か国の Biomedical Laboratory Scientists (BLS) Virtual Café 2021 は、今回で無事終了いたしました。コロナ禍で実際の派遣は出来ておりませんが、BLS Virtual Café では、オンラインでも深い交流をすることができました。学生のアンケートの回答からも、“互いの文化を知ることができ学業面や文化面で感化された”、“海外の学生と友達になれた”、“会いに行きたいという気持ちが強くなった”、など高い評価が得られ、なかには、“もっとコミュニケーションする時間が欲しかった”という意欲的な回答もありました。多くの制限の中にも関わらず、多くの情報を共有し、深く考察できたという事は学生達の未来の可能性への大きな 1 歩となったことでしょう。